



# みつくura



## 《 北米産大豆 》

### 18/19年 世界及び米国大豆生産予測・需給予測

米国農務省が12月11日発表した、18/19年度の世界大豆生産・需給予測によれば、ブラジルでの増産を反映し、生産量は前年比0.5%増の3億6,920万トンとなりました。

期初在庫の上方修正と生産量の増加に加え、需要量の減少により、期末在庫は前年比2.9%増の1億1,533万トンと上方修正になっています。

また、同日発表された米国大豆生産・需給予測では、生産量、供給量共に前回から据え置き、さらに需要量も据え置かれたことで、期末在庫も前回並みとなりました。

### 18/19年産 世界大豆生産・需給予測

|       |           |        |           |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 生産量   | 3億6,920万t | (対前年比  | 8.8%増)    |
| 消費量   | 3億5,153万t | (対前年比  | 4.6%増)    |
| 期末在庫量 | 1億1,533万t | (対前年比  | 13.8%増)   |
| 期末在庫率 | 32.8%     | (対前年度差 | 2.7ポイント増) |

### 18/19年産 米国大豆生産・需給予測

|       |           |        |            |
|-------|-----------|--------|------------|
| 生産量   | 1億2,518万t | (対前年比  | 4.3%増)     |
| 消費量   | 6,008万t   | (対前年比  | 1.9%増)     |
| 輸出货量  | 5,171万t   | (対前年比  | 10.8%減)    |
| 期末在庫量 | 2,600万t   | (対前年比  | 118.1%増)   |
| 期末在庫率 | 23.3%     | (対前年度差 | 13.1ポイント増) |



### ○18年産カナダ大豆生産、収穫面積が減少

カナダ統計局がこのほど発表した18年産カナダ大豆の生産量予測によれば、前年産比5.8%減の727万トンと見込まれています。

平均単収は前年より増加見通しですが、収穫面積が史上最高だった前年から13.5%減の630万エーカーに縮小したことが生産量減少の要因となっています。

州別では、オンタリオ州の生産量は420万トンで2ケタ増の見通しとなっているものの、マニトバ州では夏場の高温乾燥天候の影響もあり、生産量は30%近い減少となる160万トンと予測しています。

## 三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: [mitk@mitk.co.jp](mailto:mitk@mitk.co.jp)

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



# みつくら



## 《 国産大豆 》

### ○平成30年産国産大豆、前年産比12%減の17.6万トン进行計画

J A全農と全集連はこのほど、30年産大豆の集荷・販売計画をまとめ、農水省に報告しました。それによると集荷計画数量は、J A全農と全集連分を合わせて、前年産比12%減の17万5,856トンを見込んでいます。

北海道や西日本を中心に台風などの天候被害で集荷量が減少傾向にあることに加え、29年産の集荷量が堅調だった反動により2ケタ減となっていますが、28年産と比較すると5%減にとどまります。

J A全農の主要品種では、北海道のとよまさりが前年比75%、ユキシズカが前年比82%と天候の影響に加えて、前年産の集荷量が堅調だった反動で、大幅な減少となっています。

一方で作付拡大が続く里のほほえみや前年産がやや不作だったリュウホウ、ミヤギシロメは増加しています。

### ○平成30年産国産大豆入札情報

平成30年産国産大豆で初回となる12月の入札結果が、日本特産農産物協会より発表されました。

それによると、上場数量2,338トンで、落札数量が1059トン、落札率は45%という結果となりました。平均落札価格は、60kg/7,993円となり、29年産の入札終盤と比較すると、60kg/200円ほど下落しました。

また30年産播種前入札平均価格8,254円からは260円ほど下落しました。

普通大豆の銘柄別では、北海道とよまさり7,947円、青森おおすず7,855円、岩手リュウホウ7,820円、秋田リュウホウ8,380円、新潟里のほほえみ7,882円、富山エンレイ9,010円となりました。

30年産は当初の生産計画から、減産見通しとなっていますが、それでも18万トン近い集荷見込となっているため十分な供給量だと思われます。そのため通常であれば前年比1割の減産はインパクトがありますが、落札価格を上げる要因としては弱いと考えられたのではないのでしょうか。ただ一部地域の品質を懸念する声もあり、品種によっては上位等級の確保が難しくなることも予想されるため、地域や品種によって落札率や落札価格に差が生じる可能性があります。今後の入札動向に注目です。

| 入札月     | 上場数量    | 落札数量   | 落札率 |
|---------|---------|--------|-----|
| 18年 12月 | 2,338 t | 1059 t | 45% |
| 合計      | 2,338 t | 1059 t | 45% |

## 三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: [mitk@mitk.co.jp](mailto:mitk@mitk.co.jp)

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>